

科目ナンバー	SEM-3-003-ky			科目名	課題演習I (西館)		
教員名	西館 崇			開講年度学期	2020年度 前期	単位数	2
概要	<p>世の中には様々な問題があるけれども、そもそもある出来事や事物はいつ如何なる条件のもとで‘問題’となるのだろうか。同じ出来事を見ても「問題だ」と思う人・組織もあれば、「問題(が)ない」と思う人・組織もある。1年前の「問題ない」という判断が、1年後には「問題だ」に変わる場合もあろう。本演習は、私たちが普段何気なく使っている〇〇問題や問題視されている出来事などが、どのようなプロセスを経て‘問題’となったり、ならなかったりするののかについて考える。そして‘問題’と認識された出来事や事物に対する具体的な解決策を検討する。</p> <p>以上のような演習課題に取り組む上で、‘問題’という状況を、理想(あるべき姿や目標など)と現状(現在の姿や状況など)の差(ギャップ)、と定義しておくのも悪くない。この図式化は粗いけど、幾つかの重要な論点が整理されよう。例えば、現状とは誰の、どのような状況か。理想とは誰の、どのような目標か。理想と現状を把握できたなら、その差は誰がどう埋めるべきか、等など。‘問題’を特定し、それに対する解決策を考える上では、対象となる出来事や事象についての現状と理想、そしてギャップに対する丁寧で、慎重な分析が欠かせない。</p> <p>課題演習Iでは主に「問題」自体を考察するための視点や考え方について学ぶ。課題演習IIでは、現在の日本における様々な具体的事象を取り上げながら、それらに対する解決策のあり方について検討を行う。課題演習IIではまた、各自が群馬県内の地方自治体が抱える問題を一つ取り上げ、それに対する現状分析と解決策について検討する論文を執筆する。</p>						
到達目標	到達目標は、(1)「問題」に関する基礎文献の内容を理解することができる、(2)基礎文献の理解をもとに、自分自身で「問題設定」「問題解決」のアクションプランを立てることができる、(3)自分で考え、リサーチした結果を一つの論文としてまとめることができる、の3点である。						
「共愛12の力」との対応							
識見		自律する力		コミュニケーション力		問題に対応する力	
共生のための知識		自己を理解する力		伝え合う力		分析し、思考する力 ○	
共生のための態度 ○		自己を抑制する力		協働する力 ○		構想し、実行する力	
グローバル・マインド ○		主体性 ○		関係を構築する力		実践的スキル	
教授法及び課題のフィードバック方法		演習では、毎回の報告者とは別に司会者を立て、学生主体の報告及び討論を行う。ただし、毎回の演習の最初ないし最後には、ミニ講義や討論内容に関する論点整理などを行う予定。また現地でのフィールドワークやイベントの実施においては、積極的かつ主体的な参加が求められる。					
アクティブラーニング		○	サービスラーニング			課題解決型学修	○
受講条件 前提科目		特になし。					
アセスメントポリシー及び評価方法		評価は、(1)演習における報告と討論への積極的な参加状況、(2)夏休み中の各種スタディーツアーやゼミ主催イベントへの積極的な参加と責任ある行動、あるいは個人による国内外での積極的な学びの実践状況、(3)期末レポート、などから総合的に評価する。					
教材		進藤宗幸著(2016)『政治をみる眼～次の時代を動かす君たちへ』出版館ブック・クラブ。(ISBN:978-4-915884-70-2) 広岡守穂編(2019)『社会が変わるとはどういうことか?』有信堂。(ISBN:978-4-8420-5022) 松田憲忠・三田妃路佳編(2019)『対立軸でみる公共政策入門』法律文化社。(ISBN:978-4-589-04037-4)					
参考図書		演習中に適宜紹介する。					
内容・スケジュール		<p>前期、夏休み期間中、後期のそれぞれにおける演習内容については次のとおり。前期では、政策科学や政策決定過程、物事のフレーミングに関する幾つかの文献を輪読する。また各自の興味・関心に沿った出来事(国際的なものでも、地域に根ざしたものでも良い)を一つ選び、問題設定から解決までの道筋を考えるためのワークショップを行う。夏休み期間中は、前期の学びを踏まえながら、(1)政策提言をテーマとした論文コンクールに応募する(5000字程度の小論文を執筆する)、また(2)群馬県が直面している政策課題を一つ取り上げ、その課題に対する解決策を具体的に立案・企画し、実行に移す(次年度は外国人との共生を取り上げ、「多文化の集い」事業を実施する予定)。後期は、前期の輪読を継続して行いながら、卒業研究(グローバル政策提言型論文の執筆)に向けた文献レビューと、前期に続き小論文の作成を行う。</p>					

Number	SEM-3-003-ky	Subject	Junior Specialty Seminar I		
Name	西舘 崇 (Nishitate Takashi)	Year and Semester	First semester for 2020	Credits	2
Course outline	<p>This seminar nurtures students who are willing to challenge and tackle issues within and outside Japan from global and local perspectives. In doing so, this seminar also introduces the idea of 'positive peace' by Johan Galtung, called the father of peace studies, and helps students raise awareness of broader issues from the Galtung's framework. The students are expected to participate in class discussion and debate activities and to write a review essay by the end of January.</p>				